

花水木だより

第93号 令和3年8月
千種区鯉城会会報
発行/花水木鯉城会



〈 花水木鯉城会の輪を拓げよう 〉

目次



表紙	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
目次	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
巻頭言	令和3年度花水木鯨城会 会長 小松 憲次	3
地域会		
	令和3年度第1回地域長会議／今池地域会	4
	振甫地域会／若水地域会	5
	城山地域会／東星地域会	6
	千種台地域会／千種地域会	7
特集	“新運営委員に期待する” 会長 小松 憲次	8
	新運営委員のご紹介	9～10
行事・	地域会交歓ボウリング大会	11
取材記		
	「コーヒーサロンサークル」の発足	12
会員投稿	カルガモの危機（前編）	13
	“ここが天王山”	14
お知らせ／	編集後記	15
	今後の行事予定／次号予告（裏表紙）	16

表紙の言葉



ある商店街の夏祭り

渡辺 武通（19期 美術）

コロナ・蔓延防止で外出自粛。落ち込んだ雰囲気の中、気分転換に数年前に撮影した七夕祭りの写真を取り出してみました。

写真の出来映えは上手くありませんが皆さんの気分が少しでも明るくなれば嬉しく思います。花水木だより 93号がお手元に届くころ蔓延防止が解除されているといいですね。



全員参加型の花水木鯨城会を目指して



花水木鯨城会
会長 小松 憲次 (32期 美術)

暑さ厳しき折、花水木鯨城会会員の皆様、お変わりございませんか。

当誌が皆様のお手元に届く頃には、東京 2020 オリンピック・パラリンピックは佳境を迎えているのではないのでしょうか。

“東京オリパラ”に夢を託したアスリートの活躍と共に、新型コロナの感染状況が抑制されていることを祈るばかりです。近い将来、日本の景況と共にコロナ禍も回復し、マスク無しで日常生活が出来る日を楽しみにしたいと思います。

新年度に入りましても、昨年来のコロナ感染の影響は継続し、私達花水木鯨城会の活動も何かと影響を受けてきました。しかし先の一筋の光明に向かって、運営委員会・地域会・同好会が現在懸命に新たな具体的な企画を進めています。

7月には新たに「コーヒーサロンサークル」が稼働しました。愛知県の新型コロナ新規感染が落ち着きを見せてきた今、「デイサービス」「地域会公園清掃」「児童館支援」他、各種ボランティア活動に多くの会員の参加を頂いていることに感謝です。合わせてコロナ禍により、活動を休止中の会員皆様の現場復帰を心待ちしています。

去る6月には「地域長会議」を開催し、更なる活性化を議論しました。8月には「同好会代表者懇談会」を実施し、同様の啓蒙を行います。芸術の秋、10月には、恒例の「趣味の作品展」を実施します。多くの皆様の作品出展をお待ちしています。加えて「ネット作品展」と題して、Web上で全作品を、どなたでも閲覧できるITシステムも構築しています。

今後の花水木鯨城会は「計画は慎重に、行動は大胆に」の姿勢で取組んで参ります。先人の言葉にある「失敗を人生の重荷にする人、失敗を人生の土台にする人」の内、常に後者を意識して努力します。そのためにも、一人でも多くの会員の皆様の積極参加をお願いする次第です。全員参加型の花水木鯨城会を目指して皆様のお力添えが必要です。

末筆ながら、花水木鯨城会の益々の発展と、会員そして会員ご家族の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

令和3年度第1回 地域長会議

令和3年6月22日(火)15時～17時、千種区社会福祉協議会研修室にて開催され、小松会長から、「新型コロナ感染防止の対策の中、花水木鯨城会では、地域会、同好会、運営委員会の3つの組織が円滑に回りますように、皆さんで知恵を出し合い地盤の強化を図っていききたい」と指針発表がありました。



地域名	地域長				幹事			
	氏名	期	学科	備考	氏名	期	学科	備考
今池	福田由美子	28	福祉		吉村 勝幸	28	地域	新任
					間淵とみ子	32	健康 A	新任
振甫	脇所 耐	29	生活 B		大村 悦郎	30	生活 A	
若水	浅野 隆弘	28	地域	新任	寺澤 正春	31	文化 B	
城山	松川 正信	29	地域 B		檜澤 一也	31	生活 B	
東星	浅野 孝治	27	地域		丹羽 文雄	32	地域 A	
千種台	西脇 弘善	29	地域 B		福島 好明	30	文化 A	
千種	筒井 孝志	30	地域 A	新任	水谷 武子	32	福祉	新任

今池地域会



地域長 福田由美子 (28期 福祉)

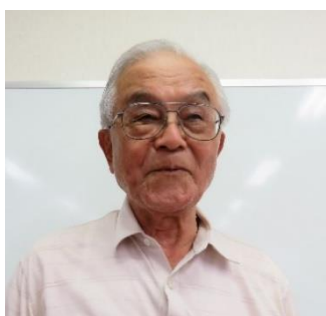
今池地域会は、千種区の南西に位置し、「今池音頭」で、おなじみの今池を中心に北から、内山、千種、千石学区へと連なります。今年度は、1名の新会員を迎え、会員数37名(男性23名、女性14名)です。

会員の皆様は各地域で、下校時パトロール、トワイライト当番、近所のどんぐり広場清掃ボランティアや、写真、太極拳、グラウンドゴルフ等、居場所を見つけての活動も積極的な、「きょうよう(今日・用)、きょういく(今日・行く)をつくる“お元気さん”」が多い地域会です。

社会状況を見ながら、例年の様に、年4回の地域会、社会見学、散策会など、親睦を図れる行事が実施できる事を願いながら、会員の皆様と「顔の見える関係作り」「どこかで誰かが見ていてくれる地域会」「気軽に声を掛け合い、つながりの深い地域会」であるように願っています。

今年度は、引き続き感染対策を施したうえで、会員の皆様のお力添えをいただきながら慎重な地域会のスタートです。

振甫地域会



地域長 脇所 耐 (29期 生活B)

振甫地域として、今回は地域内の史跡を紹介します。

1. 永弘院・・・住所：上野 1-4-18

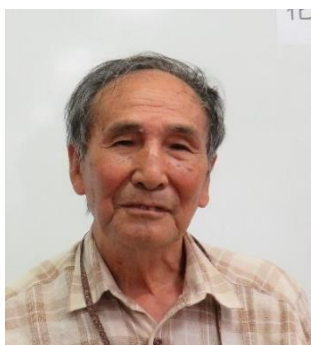
永弘院は禅宗・臨済宗の寺で、平安時代の仏師・定朝の作と言われる薬師如来像が本尊であり、戦国時代の16世紀に織田信長の与力「下方左近将監貞清」が自分の寺として建立した。下方左近は安土城の普請奉行や、信長亡き後は、清州城主だった織田信雄や松平忠吉に仕え、80歳で生涯を閉じた。

尚、上野城は、上野小学校の東にあったと言われており、下方の苗字は「下方町」として、今も残っている。

2. 清明神社・・・住所：清明山 1-6

祭神は「安部清明」であり、事歴によれば、清明は寛和2年(987年)に尾張の国、上野村に来住し、当時、上野村にはマムシが多く生息しており、村人を苦しめていたので、清明が加持祈祷した処、マムシが居なくなったとの事。その後、江戸時代には又マムシが出るようになり、安永年間(1778年)に清明の神霊を勧請し「清明塚と祠」を建てた処、マムシが居なくなったと言われている。昭和32年9月に清明神社建設発起人が設立され、平岩市会議員の斡旋で小林名古屋市長が「清明神社の揮毫(きごう)」をされ、昭和33年に愛知県神社庁に登録された。

若水地域会



地域長 浅野 隆弘 (28期 地域)

本年度、若水地域長に任命されました浅野です。

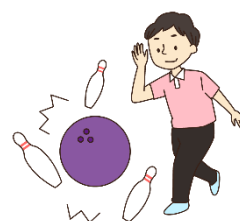
新型コロナが蔓延中、4月から殆ど活動できない状態で、先日、どうにか茶屋ヶ坂公園、鹿子公園の清掃ができました。

他には、7月12日のボウリング大会に6名エントリー一致しました。いきなり本番だと思っていましたが、練習をしようとの事で、6月28日に本山ボウルで5名(うち女性1名)が現地集合して、同じ日に、振甫グループと同席となりました。

皆さん、一年ぶり、中には数十年ぶりの人もいて、ストライクかなと思ったら1ピン残っていたり、頭で分かっているけど体がついていかず、年齢を実感しました。

競技終了後は、近くのレストランで今後のことを話し合い、早く本来の姿に戻る事を願い散会しました。

今後は、色々、活動計画を立て実践して、皆さんに楽しんで頂きます。



城山地域会



地域長 松川 正信 (29期 地域B)

城山地域会は、千種区中心部に位置する「田代学区」と千種区で一番新しくできた「見付学区」をエリアとする地域会です。域内は、織田・徳川ゆかりの史跡や歴史ある名刹や多くの文化財の宝庫となっています。この時期、密を避けて「覚王山・四谷めぐり散策路コース」をお楽しみになってはいかがでしょうか。

現在、会員数は鯉城学園 16 期生から、32 期生までの 45 名。千種区 7 地域会の中で最大の会員数です。

昨年、コロナ禍の為に、「ワインを楽しむ会」、「地域会総会・食事会」等、地域会企画は残念ながら中止となりました。一日も早く、普通の生活を望むばかりです。

高年大学、花水木鯉城会で、新しく出会った私たち、この縁を大切に「こんにちは！」と気軽に言葉を交わせる仲間がいる地域にしたいものです。

魅力ある、楽しい地域会づくりに、皆様のご支援を、よろしくお願いします。

東星地域会



地域長 浅野 孝治 (27期 地域)

花水木だより 89 号（令和 2 年 8 月）で、東星地域会の活動を紹介しました。

その後のコロナ禍で、地域会独自の活動は、殆ど休止とし、紹介できる内容がありませんので、東星地域の歴史に関する話題《地名編》の一部を紹介します（内容には諸説ありますので、責任は負えませんが、参考にして頂ければ）。

◎**本山町**…昔は「ほんやま」と呼ばれていた。「本」は「本郷＝末森村の中心地」。「山」は「集落」の意で、この地に、山はありません。名古屋に合併（1921 年）する頃から、「もとやま」と呼ばれるようになった。

◎**唐山町**…奈良時代から鎌倉時代に須恵器を焼いていた《東山古窯群》の窯跡が区内東部から、名東区・日進・長久手方面にかけて、多数確認されているが、この須恵器づくりの帰化人（唐人）が住んだ山との説があります。

※ 他にも『池に関する地名』『星ヶ丘の由来』など、ありますが、紙面の関係で割愛、機会があれば、続編掲載します。

※ 皆さんが住んでる所の「歴史」「地名の由来」など、調べると面白いですよ。

《今後の活動》

「オリンピック強行開催後の、コロナの状況」、「ワクチン接種の浸透度合」などを鑑み、再開時期を考えていきます。

千種台地域会



地域長 西脇 弘善 (29期 地域B)

本年度総会を4月24日(土)、コロナ禍の厳しい中、会員38名の内、11名(30%)の出席者を迎えて開催できました。役員改選につきましては、昨年に続き、3年目の地域長を拝命し、幹事には同じく福島氏、会計は女性の高橋氏の3名で務めてまいります。今まで同様の協力を、よろしくお願い致します。

本年、会員数は、残念ながら38名より6名減の32名です。花水木会員も、283名より、27名減の256名となりました。

退会者を無くし、又、新規入会者の増加等に、ご尽力くださるようお願いいたします。

本年度活動は、ボウリング大会、趣味の作品展等に、参加していきます。また、11月頃には、筒井千種地域長より、勧誘を受けております合同企画行事を計画しております。初めての試みではありますが、多数の会員の賛同を得て、参加くださる事を、お願い申し上げます。

千種地域会



地域長 筒井 孝志 (30期 地域A)

今年度の千種地域長を務めることになりました、筒井です。1年間、よろしくお願い致します。

グループ長、宅配担当の皆様、地域会会員の皆様におかれましては、地域会の運営に、ご協力の程、よろしくお願い致します。

平成28年度から5年間、地域会の活動を支えて頂いた、前地域長の大畠さん、ありがとうございました。この場を、お借りして、お礼申し上げます。

千種地域会は、宮根学区と、千代田橋学区の2学区で構成され、令和3年度の会員数は、昨年度から1名減の32名になりました。

男性14名、女性18名で、7地域の中で、唯一、女性会員が男性会員を上回る地域会です。本年度は、コロナ感染の再拡大による緊急事態宣言発令などの影響を受けて、地域会としての活動は出来ていません。

地域会行事への参加者の減少や固定化を踏まえて、この機会に定例会の場所、開催曜日、食事会などの行事のあり方について、会員の皆様の意見をよくお聞きする1年としたいと思います。



特 集

“ 新運営委員に期待する ”

花水木鯨城会 会長 小松 憲次

昭和 24 年生まれの私は団塊の世代、いわば高度経済成長期の申し子でもあります。私たちが社会に出た 1970 年代は、エアコン装備のないマニュアル車が多く、携帯電話もパソコンもありませんでした。しかし現在では、フル装備の AT 車が殆どで、携帯電話は必須の持ち物となりパソコンのない毎日も考えられません。言い換えれば国民が一様に便利さと情報と知識を自然と享受できる有難い世の中となりました。



かつての父親は、毎朝「行ってきます」と家を出たら最後・・・、どこで何をしているかは父親本人の自由意思と良識に委ねられていました。しかし今では携帯電話の電源を切っておいただけで、一瞬のうちに家庭と社会から抹殺されてしまう。いっそ神隠しにでも遭ったつもりでと思うがその勇氣もない、不在の自由さえ失ってしまったのです。



心のゆとりをもって社会と繋がっていたい。そんな思いを体感出来るのが花水木鯨城会です。そして運営委員会が具体的にそのお手伝いをします。今年度の 4 人の新運営委員には大いに期待をしています。

< 新運営委員 (32 期・33 期) >

所属	氏名	期	学科	クラブ	地域会
総務委員会	細川 庸子	33	健康 A	初歩からの将棋	千種台
	永井 静子	33	生活 A	国際文化研究	千種
社会奉仕委員会	杉浦 秋子	32	福祉	パソコン	振甫
行事委員会	糊澤 征子	33	健康 A	パソコン	今池



新運営委員（32期・33期）のご紹介

令和3年度の新運営委員4名にご挨拶頂きました。新型コロナウイルスで自粛が続いた活動も、ワクチン接種が進んでいるので徐々に再開されるでしょう。新委員のご活躍を楽しみにしています。

総務委員会

細川 庸子（33期）



花水木だより第93号への投稿依頼が唐突にやって来ました。33期は卒業間際にコロナの影響で授業がカットされ、「卒業式、謝恩会も取りやめ」という状況でした。すんなり、千種鯉城会に入会した訳でもない私が1年間のブランクの中で戸惑って役員を承りました。花水木鯉城会の活動内容も会員様お一人お一人のお顔もお名前も分からない状態です。

在学中は健康Aクラスでクラスメイトと楽しく学び、体育祭、文化祭など力を合わせて頑張りました。学生協議会の活動も2年間、総務として仲間と共にやり遂げることができました。在学中は敬老パスもなくて大変でしたが、昨年夏に敬老パスを頂戴しましたので、学園と花水木鯉城会との橋渡し役を何とか果たせるかと考えております。

コロナ禍で体重が人生マックスに達しており、今は週1で太極拳と過ごしていますが手強い内臓脂肪と皮下脂肪で苦戦の毎日です。

総務委員会

永井 静子（33期）



突然のお電話で、今年は宜しくとの運営委員会のご依頼を頂きました。どんな活動をされていて、どんな組織かも詳細が判らないまま引き受けてしまいました。八事から千種区へ10年前に転居、鹿子公園、茶屋ヶ坂公園、富士見台会館、これらの場所すら判らずの不安な始まりでしたが、第1回の運営委員会での役員の方々の力強いご挨拶、的確、詳細な組織、活動内容の説明とご指導を頂き安堵しました。

年間を通しての様々な行事、社会奉仕、地域活動、運営委員の方々の膨大な資料作成、印刷、企画等々のお仕事、活動に心から感謝です。私もまずは出来ることから、茶屋ヶ坂公園、鹿子公園の清掃活動に参加させて頂きました。マスク越しでの皆様との作業でしたが、優しいまなざしにとっても満足感を覚えました。

今後、自分を信じる心を持って、少しずつ、自分らしく活動に参加させて頂きます。



社会奉仕委員会
杉浦 秋子 (32期)



32 期を卒業してすぐに花水木鯨城会に入会しました。運営委員のお誘いを頂きましたが、主人が闘病中にて一旦はお断りしました。残念ながら、主人は昨年他界しました。今年になり、再度の依頼がありました。私は微力にてお役に立てる自信はありませんでしたが、皆様のご指導を受け、経験することにより、自分に何かの変化、成長が出来ればいいかと思ってお受けしました。

今の内容も把握していない状況で運営委員会に参加です。皆さんのパワーある活動にびっくりすることも多くてついて行けるか心配です。表現は悪いのですが、開き直り、背伸びせず、自分のありのままの力で活動に参加したいと思います。

皆さんにご迷惑をおかけしますが、ご指導ご鞭撻をお願い致します。楽しく活動して行く事を目的とします。

行事委員会
棚澤 征子 (33期)



昨年2月末、私たち33期生は突然に学園生活の終了を告げられました。卒業式も謝恩会も中止となり、楽しかった学園生活の2年間があっけない幕切れとなりました。

その後、クラスやクラブの学友とはスマホのグループラインで繋がって情報交換をしています。「緊急事態宣言」の合間を縫いながら、定例会やその後のランチ会を楽しみ、リトルワールドやお花見会にも出かけました。

花水木鯨城会では、ボウリング大会、国際女子マラソン大会でのボランティア、デイサービスでのボランティア3回、コーヒーサロン1回の活動に参加させていただき、芸術文化センターでの立派な作品展も拝見致しました。また、今池地域会も2回出席させていただきました。

コロナワクチンの接種が行きわたり、コロナ騒ぎが収束し、花水木鯨城会の皆様と心置きなく交流の機会が持てますように願っています。



地域会交歓ボウリング大会

行事委員会

委員長 南 清貴(31期 園芸)

7月12日(月)、花水木鯨城会の地域会交歓ボウリング大会が、本山ボウルにおいて10時から12時まで開催されました。

コロナ感染防止のため、まん延防止措置の解除日ではありましたが、昨年同様、全員マスクを着用してのプレーで、食事はなしの大会となりました。



それでも小松会長の始球式を皮切りに、ボウリング全盛の時代を謳歌した、総勢27名の花水木会員の皆さんによる熱戦が繰り広げられました。

また、観客として、各地域から応援のメンバーが駆け付けゲームを盛り上げました。



熱い戦いの結果、個人賞1位は、振甫地域会の片山敦久さん、同2位は千種台地域会の尾崎達男さんでした。



地域会の優勝は、振甫地域会、準優勝は、千種台地域会、城山地域会が3位という結果でした。



この地域、中部地区は、東海豪雨以来、目立った異常気象による災害は無く過ごしてきましたが、

今月発生しました熱海の土石流災害を見ますと、他人事ではなくなりました。

そんな中でしたが、久しぶりの運動となり、皆さんコロナや災いを吹き飛ばす勢いで、頑張っていました。

取材記

「コーヒーサロンサークル」の発足



このたび、花水木鯉城会では、地域住民の皆さんがゆっくり集う場を提供し、多くの方に喜んで頂きたいとの趣旨から、以下のとおり「コーヒーサロンサークル」がスタートしました。

開催日：月2回。随時チラシなどで日程をお知らせします。

8・9月の予定は、8月6日（金）、17日（火）、9月6日（月）、15日（水）です。

場 所：西崎町2-4-1 千種区在宅サービスセンター内（千種区社会福祉協議会1F）

時 間：毎回12時30分～14時。

コーヒーは、1杯50円。本格コーヒー専門のサロンですので本格派の味です。花水木鯉城会会員だけでなく、一般の方も大歓迎ですので是非お誘いください。



花水木鯉城会「コーヒーサロン」の初回営業は、7月1日（木）でした。（※）

千種区社会福祉協議会ではコーヒーサロンのPRチラシを配布の結果、ご近所の方や趣味のサークルのグループ、社会福祉協議会の職員の方、2Fにあるデイサービスの皆さんなど、入れ替わり立ち代わり60人以上が来店し盛況でした。

今はコーヒーの提供ですが、今後、店内でミニコンサート・絵や写真、花とか折り紙等の作品展示など、来店されたお客様に楽しんで頂く企画も計画されています。

花水木鯉城会の皆さん、誘い合って来店をお願いします。

（※）名古屋市社会福祉協議会が、高齢者や障害者、子育て中の親子などが身近な場所で気軽に“仲間や生きがいがづくり”を行うための「ふれあい生き生きサロン整備」を進めており、その一つとして、サロンの開設・運営に至りました。

交通：

地下鉄東山線「本山」・「覚王山」駅
又は名城線「本山」駅から徒歩10分。
市バスは「田代本通」が最寄りバス停です。



会員投稿（その1）

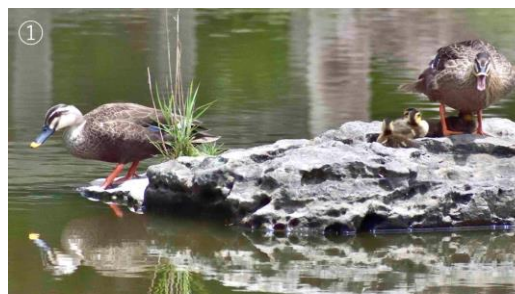


写真で綴る カルガモの危機（前編）



桑原 守 (32期 地域A)

身近な公園等でも、目を凝らせば野生動物たちの生き様が見えてくる。中には我々人間も感心するような行動も散見される。ここでは、カルガモ親子の危機対応能力を検証してみましょう。

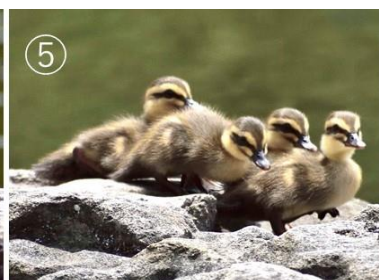


鶴舞公園で巣立ち期を迎えたカルガモの子4羽は、初めて両親に池の中の岩場に連れ出されて楽しいひと時を過ごしていました。やがて、父親は子の世話を母親に任せて出かけるが、母親からは「早く帰ってよ！」と釘を刺されているご様子。カルガモの寿命は数年と言われ、親も子育ての経験は乏しいので心配が募ります（図①）。



母親は子らを強い日差しと危険な野鳥から守ろうと気丈に立ち続けていましたが、父親の帰りが遅く、空腹の子が心配になったようで自分も暫く狩りに出る決断をしたようです。幼子ばかりを残して大丈夫でしょうか？（②）

この日の子らは、危険を承知で親に連れ出され、池まで歩き、岩場まで泳いで来たので疲れ果てて睡魔が襲って来たようです。巣では親が運んだ餌を取り合うライバル同士でしたが、見知らぬ危険に晒される今は頼り合う仲間で、四方を監視し合いながら暫しの眠りにつきました（③）。



しかし、眠りの中でも危機意識は薄れていなかったようです。一早く危険を察知した3羽の子らは目覚めて左方向の岩場を注視し（④）、右端の子から逃げ始めて最後の1羽も寝ぼけ眼で後を追います（⑤）。

左の岩場では登って来た子亀が危険を感じて立ち止まり、親亀が駆けつけていました（⑥）。水棲亀は主に肉食性で小動物には危険な相手。勝てる相手と嗅覚

で判断した親亀は前進を始めたが・・・！？（次号に続く）

J R 京都線「山崎駅」から、北へ徒歩 15 分、天王山（海拔 270m）登山道の中腹に「天王山“宝積寺”（通称“宝寺”）」があります。

この地は、1582 年（天正 10 年）、羽柴秀吉が「本能寺の変」の後、明智光秀と戦った「山崎の戦い」の舞台となり、宝積寺は秀吉軍の本陣が置かれた場所と言われています。

天王山から見下ろす山崎は、大阪と京都を結ぶ中間にあって古くから交通の要衝とされ、光秀軍は、近江坂本方面から急ぎ「中国大返し」の秀吉を迎え撃つのですが、山崎の淀川付近で圧倒的軍勢を有する秀吉軍に敗れます。そして秀吉は、山崎の合戦の後、大阪城が完成するまで宝積寺一帯の山崎城を本拠地にしたとのこと。

現代、「ここが天王山」「天王山の戦い」とは、「ここが一番の勝負どころ」の意味に使われますが、まさに今“ポストコロナ”の世相に向かって激励の言葉になりそうな気がします。



三重塔（重要文化財）

ところで、宝積寺は、聖武天皇の時代に僧行基が開いた真言宗の寺で、通称の“宝寺”とは、聖武天皇が夢で龍神から授けられた「打出」と「小槌」を祀っていることに由来します。そのため商売繁盛のお寺として知られているようです。私も縁起担ぎの親類にお付き合いしたのが拝観のきっかけです。

ここには重要文化財として、秀吉の戦勝記念に建てられた三重塔や、本尊となる十一面観音像、閻魔大王座像など、秘仏もあり歴史盛りだくさんです。

一帯は山河の眺望に優れ、実業家の別荘が多いと聞きましたが、それなりに“宝寺”への道程は、歩くには急峻な坂を、車では大変狭い道幅を覚悟しなければなりません。それらを克服しますと、周辺には、収蔵品のみならず建造物としても格調の高い「アサヒビール大山崎山荘美術館」や、J R 山崎駅に隣接する国宝の茶室「妙喜庵“待庵”」もあり、まさしく文化の香りを堪能できます。私も全て訪れたいと思いますが、何分にも不定期休であったり予約制であったりで同日鑑賞は難しい状況にあります。予定調整が可能であれば 1 日踏破にチャレンジしたいと思っています。

右は、利休茶室“待庵”のある妙喜庵（はがき申込）
但し、今夏はいずれも入場を見合わせています。



宝積寺本堂
堂内十一面観世音菩薩
（重要文化財）



お 知 ら せ

会員の皆さんの投稿募集



「花水木だより」は毎号会員の皆さんの協力を得て発行しています。
現在、以下の内容で会員の皆さんの作品、寄稿文を募集しています。

ふるってご応募ください。

応募期限：次号掲載ご希望の方は、9月末日。それ以外の方はいつでも受け付けます。

作品内容：随筆、俳句、短歌、趣味の作品、旅行記、印象深い出来事など。

文章原稿の場合は、半頁400字、1頁800字が目安です。写真やカットもお付けください。

提出宛先：広報委員長 大澤 之夫

T E L : 090-3307-1160

Eメール : ikeyuki0726@r3.ucom.ne.jp

〒464-0066 千種区池下町 2-63-25 グラントマンション池下 2805

編 集 後 記

令和3年度の花水木鯉城会は、コロナ感染の影響が続く中でも、なんとか会員の皆様の絆を深めようと、会長はじめ地域長や地域幹事の方々、運営委員、同好会責任者を中心に、様々な努力をされています。コロナ禍が無ければ、この季節は絶好の行楽、スポーツ、旅行シーズンですので、花水木鯉城会としても数々の行事が組まれて、会員の皆様も活発に動かれていたと思います。ずっと閉じこもる生活は、長い人生のなかでも初めてかもしれません。

ただ、このところ僅かですが、明るい兆しも見えてきた様で、花水木鯉城会のなかでも、新しい動きが出てきました。

「花水木だより」では、こんな兆候を出来るだけ多く取材して、会員の皆様にお届けしたいと思っています。「花水木鯉城会に入会したおかげで、新しい人生を見つけた、やりがいを感じていきいきと過ごしている」という方々に数多く出会って元気づけられる毎日ですが、こんな経験を「花水木だより」でお伝えできれば、幸いです。

花水木鯉城会では、今後、新たな計画・企画が予定されています。この内容や情報を全会員の皆様が共有されて、活動に参加される事を願って「花水木だより」をお届けできる様に、微力ながら努めてまいります。



広報委員会

委員長 大澤 之夫(32期 陶芸)

委員 大村 悦郎(30期 生活A) 委員(HP担当) 筒井 孝志(30期 地域A)

委員 桑原 守(32期 地域A) 委員(HP担当) 高木 収(30期 地域B)

今後の行事予定

行事委員会

■第18回 趣味の作品展



皆様の趣味の腕前をご披露ください。

開催期間：令和3年10月12日(火)~17日(日) 午前10時~午後6時

会場：愛知芸術文化センター 12階 アートスペースH

★インターネットで鑑賞できる「ネット作品展」も予定しています。

次号予告



「花水木だより 94号」

封入日：令和3年10月29日(金)

発行日：令和3年11月(2日)(火)

花水木だより 第93号

発行 花水木鯉城会
名古屋市高年大学 鯉城学園
発行日 令和3年8月3日
発行人 会長 小松 憲次
編集人 広報委員長 大澤 之夫